

夢のかけはし

長年の経験をもとに 海外へ日本の食文化を

打馬2丁目に夫と犬と暮らす。35年間続けてきた書道と旅行が趣味。また、お菓子作りは和菓子・洋菓子ともに好きで、子どもが小さいときはよく作っていたという。得意な料理は魚の煮つけ。好きな言葉は「一期一会」。(64歳)

平成30年から2年間、JICA海外協力隊の日系社会シニアボランティアとして、ブラジルで和食の普及活動を行いました。栄養士として長年働いてきた経験を生かし、現地の日系団体へ和食の料理教室を実施。食文化を伝えることを目的に活動しました。

私が海外協力隊に応募した理由は、若いときに協力隊のを知り、それ以来海外での活動にずっと関心を持っていたからです。留学生のホームステイ受け入れなど、草の根の活動を続けながら、平成28年にシニアボランティアとして応募しました。合格しましたが、娘の出産と重なったために一度辞退。翌年に再び合格することができ、念願叶い協力隊員となることができました。

私の赴任地はブラジルの南西部に位置するレジストロ市。この都市を中心にして九州ほどの面積が私の主な活動範囲でした。40ほどある日系の団体のうち23団体を巡回しながら、イベントの際に各団体が作る料理の新メニューの提案や和食の普及活動、講習会の開催といった活動を日々行っていました。その中で苦労したのが、調味料の調達とバスでの長距離移動。日本で使っているような調味料はお店に置いていないか、値段がとても高く、特に薄口しょうゆはなかなか手に入りませんでした。また、主な交通手段であったバス移

ジャイカ
JICA海外協力隊
元隊員
たなか くみこ
田中 久美子 さん

動にも苦労しました。料理教室会場への移動時間は平均4〜5時間かかるうえ、きれいな道は少なく曲がりくねった道ばかり。車酔いをしやすいので、景色を楽しむ余裕もななくずっと寝て過ごしていました。

しかし、苦労もありましたが、ブラジルでの活動はとても楽しいものでした。今後は今まで行ってきた草の根の活動を続けていくとともに、市内にいる技能実習生に日本の文化を体験させてあげられるような活動を行っていききたいと思っています。大きな活動はできませんが、自分にできることをこれからも続けていきたいです。



【右】料理講習会で冷やし中華とぎょうざを作ったときの様子。
【左】日系人のコミュニティがある場所には必ずと言っていいほど鳥居が建てられ、シンボルとなっている。

